

社業生かし社会貢献

風人もよう

大手飲料会社のサラリーマンを経て、父親が佐世保市内で創業した業務食材卸会社「協和商工」で経営に携わって30年以上が過ぎた。還暦が近づき、立ち止まって「企業人」として人生を振り返ってみた。後悔はないが物足りなさはあった。「成すべきことがあつたんじゃないか。そんな思いを抱く頃、経済的事情などから食事を満足に取れない子どもたちを支援する「子ども食堂」を紹介する新聞記事を見た。

九州各地でも数年前から子ども食堂の活動が本格化した。故郷の佐世保でも昨年4月以降、長崎国際大を皮切りに、子育て中や働く女性が運営する子ども食堂が立ち上がった。食料事情が十分ではない昭和30年代の幼少期は「たらふく飯を食べることが一番の夢だった」。飽食の時代の現代でも、子どもたちにそんな現実があることに衝撃を受けた。ふ

子ども食堂に食材支援する法人理事長

かしろ けいぞう
加城 敬三さん(59)



設などに取りかかる。食品の適切な在庫情報のためにも、これまでは厳密にしていなかった試食品などの管理も必要になる。「やることが多くて大変だよ」。言葉とは裏腹に表情は「成すべきこと」を見つけた満足感にあふれる。「同業他社にも子ども食堂支援の取り組みが広がってほしい。その仕組みを佐世保から発信したい」
(阿比留北斗)

私の好きな人物

と自らの足元を見れば、常に多種多様な食材に囲まれて仕事をしていた。「何か、自分にもできることがあるんじゃないか」。子ども食堂に携わる人々の会合に積極的に参加し、その答えを見つけようとした。昨年10月、同社社長で兄一成さん(63)にも相談し、専務を続けながら子ども食堂に食材を提供する非営利

の法人「フードバンク協和」を立ち上げ、理事長に就任した。今年1月には、最大千食分のサンプルや試食用食材を子ども食堂の運営団体や児童養護施設に無償提供すると発表した。食品卸会社としては中堅ながらも全国で初めての挑戦だ。4月からの運営開始に向け、食材注文を受け付けるホームページの開発

経営に携わる立場から歴史上のリーダーや国内外の経営者の伝記をよく読みます。最も尊敬する人物は京セラ創業者の稲盛和夫さん。トップは利己的にならず、人格者であるべきとの経営哲学は学ぶべきことが多い。子ども食堂に協力したいの思いも、稲盛さんの経営哲学が根底にあります。